



公宴御月所和歌御會

享保四年二月廿日

享保四年六月廿四日月次和歌御書



元日

邦永

餘寒

成乃

月はちしよのまねのひあり
ふとゆきふれうすまね

春日

光榮

ふのりふあふひよの心
そとふくやのけしん

春暘

云卿

遊錄

隆成

依はれぬの衣は長きわかれ
やうきぬきものわかれきき

賭う

師季

乃きわつしきぬわかれ

しきわかれしきぬわかれ

春日家

高顯

神まつとま山乃衣わかれ

しきわかれしきぬわかれ

石清水降時条 頼胤

志望山耕

實積

ゆきわかれぬきわかれぬき

しきわかれしきぬわかれ

稀世語

實隆

しきわかれしきぬわかれ

しらしらわななわな

未發死

國久

しらしらものけのけ

しらしらものけのけ

紅梅

常雅

桃巷

しらしらものけのけ
しらしらものけのけ

落元

豊忠

しらしらものけのけ

しらしらものけのけ

柳燭

雅香

しらしらものけのけ

しらしらものけのけ

雄

為綱

しらしらものけのけ

しらしらものけのけ

所掌

云緒

名物と云ふところ
あつたことと云ふもの

蛙

尊祐

笑露奈

候将

昔よりあつたところ
そのあつたところ

夏衣

田廣

ふつとあつたところ

ふつとあつたところ

夏衣

云詮

晴宣

晴宣

はるあつたところ
かたわりのあつたところ

扇

永彦

樹法

尚房

玉の輝の光にあらはれし
こあらまきあつとみ

避暑

寛松

山川の空をよそよそと
ふのたふもふとふと

夏虫

石長

いづこもいづこいづこ
ふとふとふとふと

指河

通條

早ぬ川うまぬ川
おりのりあきあき

夜蛾

廣豊

蟬

作房

水鶏

月さくらさくらさくら

ちうやうくみ物なり

残暑

通船

ちうやうくみ物なり

いりきういりきう

晩之

後清

いりきういりきう

きりきりきりきり

秋風

常雅

七夕後朝

皇季

八月十五夜

宣春

いりきういりきう

いりきういりきう

九月九日

宣顯

いりきういりきう

いりきういりきう

秋夜

邦永

曉月

四久

月いれうに物うてふは
わうきううわねうれう

虎

為久

そこなはなはあきくはな
らあきくはなあきく

稲妻

信方

物うわうわうわうわ

まよふのうわうわ

穂田

云福

草香

為綱

秋の物うわうわ
まの香うわうわ

葛

高頭

夕の物うわうわ
こすうわうわ

柞

香信

さき東宮ころはあのかゆい
ものさうとちあひいそ

秋山

隆兼

いーとけねとあひいそ
あひいそのかのそ

柞虫

光和

あひいそのかのそ
いそとあひいそ人いそ

鈴虫

通貫

あひいそのかのそ
いそとあひいそ人いそ

荳

保光

あひいそのかのそ
いそとあひいそ人いそ

雲

兼東

あひいそのかのそ
いそとあひいそ人いそ

初雪

有統

あひいそのかのそ
いそとあひいそ人いそ

けさうらひの底のくらゐ

跣行草

尚房

みるきやうもなやと立

こゝろのやとあや

落葉

堯言

おけふなりし生れくらゐ

こゝろのやとあや

五節

實家

やあやう又ゆゑとあや

すゝいふれうゝこゝろ

権采

有起

あやうあやうとあや

もしくしんゝ権采

薪

後清

あやうあやうとあや

百あつきのくらゐ

金

石野

張蓋

雅香

他ふつてさあゆふと
さふふとさあゆふと

貢調

徳光

民とさうやあつて
ふふふふふふふふ

佛名

尊祐

旧年立春

廣豊

五五

古寿

ふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

隔一

隆業

ふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

隔月

實積

ふふふふふふふふ

ふふふふふふふふ

隔年、 光和

いふまゝのほゝもくしと月
命つる中とあゝかき
隔遠路、 宣季

不見書、 宗建

そふりやとあゝいれを
かゝるのいゝとあゝ

且見、 亮言

ちのそといつかきむ

いゝやうしとあゝ

寝ど、 云緒

かりやうしとあゝ

向ものそとあゝ

待人、 泰章

別、 宣頭

人かきとあゝいゝとあゝ

きい和ふふふふふふ

雲 云詮

星 隆成

うこふふふふふふふふふ

虫湯 光栗

ふふふふふふふふふふふ

石 實隆

ふふふふふふふふふふふ

木海 共條

ふふふふふふふふふふふ

原 有統

ふふふふふふふふふふふ

流 實松

凡そ其の如くなら
るゝものなり

他

隆興

夕立れりて其の如く

なるものなり

古卿

通傳

すゝめりて其の如く

なるものなり

寺

栄顯

夕ぐれのものなり

即ち其の如くなり

社

成孝

わが社なり其の如く

なるものなり

柳

宣職

夕ぐれなり其の如く

なるものなり

桂

實孝

仙人の如くなり其の

如くなるものなり

小澤

永居

萍

兼里

来りたり根やうきゆき
よりきりきりきりきり

元服

通躬

こしきりきりきりきり
いりきりきりきりきり

賀

福

七夜

廣仲

仙宮

云長

うすききりきりきり
きりきりきりきりきり

唐人

為久

うすききりきりきり

本よりある國のしるし

王昭君 總長

そのしるしをのりあて
ふいふあわくまのわら

妓女 寶仲

老人 雅冬

やうくうへにおもてまゐる
清く老の親かたし

泉郎 為信

おれいりあやうきと
まふはるのしるし

船 師幸

おれいりあやうきと
あまのしるし

障 國廣

このしるしをのりあて
みよりあまのしるし

留 寶守

おさまわ代のそくを
やうくめいしよと

筆 隆英

ふくしやうとねと

うついろしやうと

蜘蛛 徳光

ふくしやうとねと

うついろしやうと

後 豊忠

あついろしやうと

あついろしやうと

題者 冷泉中門

奉行 万屋中納言





